

# 鍋を焦がしてしまふ

## —短期記憶障害への対応

認知症  
しち-はち-きゅう  
789  
みんなであそんで  
試して  
学んで

鍋を焦がしてしまふ



認太郎…主人公 (認知症)

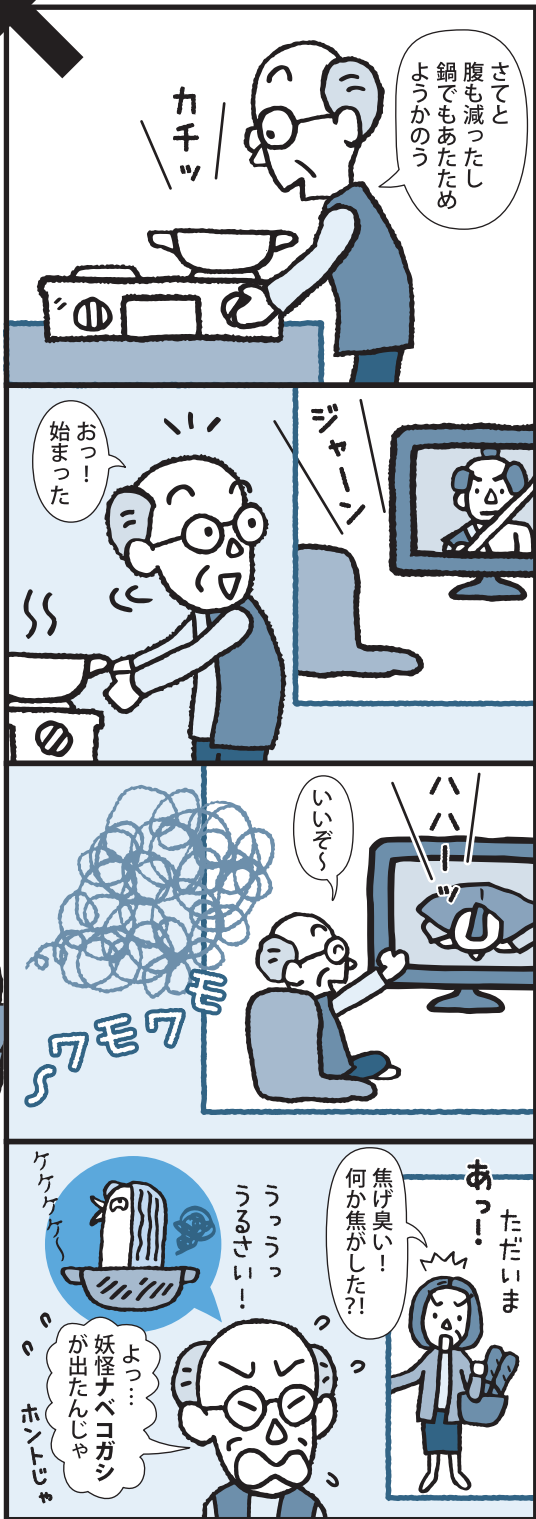


認太…息子

知子…嫁



認左衛門  
…認太郎一家のご先祖  
守り神、お助けマン

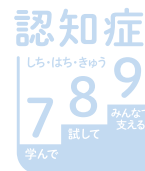


これで 妖怪ナベコガシは 封印のようじゃな!

\*いつもうまくいくわけではありません。

# 鍋を焦がしてしまおう

## —短期記憶障害への対応



### 中核症状 (必ず現れる症状)：短期記憶障害

認知症でなくとも、他のことをしている間に火をつけたことを忘れてしまうということはありますが、認知症の場合は、そもそも火をつけたことを覚えていないため、消すこと自体を思いつかないということになります。

火事にでもなっては大変と、火を使うことを禁止したり、ガスコンロをIHヒーターなどに変更することも考えられますが、そうすることで、本人の行動の選択肢を狭めたり、操作ができなくなってしまうたりして、結果的に、本人の生活上の「役割」を奪うことにつながってしまう場合があります。かえって認知症状が進んでしまう恐れがありますので、できるだけ危険をなくしつつ、本人の自立的な行為を損なわないような対策をとることが必要です。

このケースのポイント

どうすればいい？

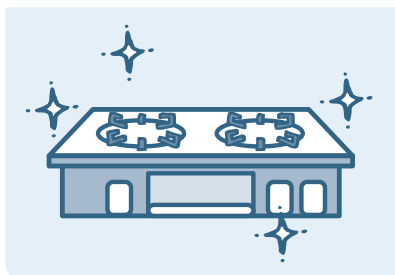
#### 対応法 ①

火の消し忘れを叱るのではなく、「一緒に作ろう」などと誘って、安全に調理できるようにしましょう。



#### 対応法 ②

①調理器具を、時間が経つと自動で火が消えるものに買い替える。②使わない時には元栓を締めておく。③住宅用の「自動消火器」を設置する。



#### 対応法 ③

介護保険サービスや配食サービス等を活用する（ヘルパーさんと一緒に料理をする／配食サービスを活用する）。



記憶は大きく「短期記憶」と「長期記憶」に分類されます。短期記憶は健常者でも数秒から数分で失われてしまいますが、長期記憶は短期記憶の中から本人にとって意味のある情報が反復を通して刻印されるように記憶されたもので、失われにくいという性質を持っています。認知症になっても現役時代の記憶を鮮やかに保持しているのは、それが長期記憶となっているからです。火を使ったり調理したりすることは長期記憶に属します。そしてそれらは、本人の今および現役時代の役割を象徴する大切な行為でもあります。

短期記憶障害によって、鍋を焦がしてしまった。これは認知症ではしょうがないことです。これを強く責めると、本人は「こんなこともできない。わたしはダメだ」という感情を抱いてしまい、さらに認知症状が進むことにもつながりかねません。本人のできる／できないをしっかりと見極め、本人の役割意識を損なわないような支援を心掛けましょう。

— あいん常澄医院 出口 葉子 (もの忘れ相談医)

医師からのアドバイス

